

ちよと

一服

にみたう

てんてんてん

暑い日中、汗をかきながら動いていると、
そう「イヤ」になつて来るが、ちよと樹々の下に
入ると休むと、少くも風が周囲の、こが遠つて
見えなくなる、とが再々ある様にあつています。
何かに夢中になつてると気がつかないが、ちよ
と時が経てば、なんぞらという事さしげさば
ある。

だから、ちよと一服してみるのも悪くはな
い。世の中の、とだつて、やれ、ITだ、これは便
利だ、新車だと毎日の様に教えるくくく
るのは、ありがたけれど、現実には、どうして
情報洪水の中で何が大切で必要なのか



が見えぬ
らくな
いもの
ひい
とえま
とが、
ません

便利さを求め、自分という者をごんご
と見かければ、身ごんごほろほろになつて
しまふ。
様な事だが、他人の判断で動かされる。自
分で判断をしなくなり、責任をこらごん
ごんごん。
そんな事増えていると感ひませんが、
どうして、こんな事になつてしまつたの
うか。...と考えるしまつたのも、人生の一
服をこると、ふつと気がついたりする。



→ボクシング

98.9.No.255
発行 市岡出版
巻 44
0883-88-5295

雨
ふれば
雨
陽
照



毎日の天候が長くなるのは、
任方のない事とはいえず、諸いの
始めには、「雨が多くなる...」とま
うは暑いので...」なんこのが著
通にあります。
人間様に都合の好い日はか
はありませぬ。
「風吹けば...」なんて言
すが、好都合な人がいれば「反計
の人ともいます。それなのに、おへ
うえかいいと言ふ人が多りの
長くなる。 暑夏のせいかな